

平成28年度 第5回飯田市行財政改革推進委員会 議事録

日時：平成29年3月29日（水）17：00～18：30

場所：市役所 A棟第2委員会室

出席者：佐々木(重)会長、佐々木(祥)会長職務代理、久保田委員、須山委員、森下委員、伊藤委員、中島委員、梶川委員、林委員、西塚委員、上河内委員、北原委員、小林委員、中山委員
佐藤行財政改革推進本部本部長、伊藤総務部長、櫻井財政課長、原田人事課長、松尾企画課長、事務局

欠席者：なし

辞令交付 小林委員、梶川委員、伊藤委員 授与者：佐藤本部長

1 開会（伊藤総務部長）

2 あいさつ

（佐藤本部長）

- ・新しく任命させていただいた3名の方々には宜しくお願ひしたい。
平成28年度の行革推進委員会では、来年度からの新しい行財政改革大綱を12月にまとめていただき感謝します。これに基づいて、平成32年度まで取組を進めていくことになる。
平成29年度の行財政改革大綱に基づく実行計画を説明させていただくが、市役所のみならず、市民の皆さまにもご理解いただけるように、広報しながら、市を挙げて取り組んでいきたい。委員の皆様にもそれぞれの立場での力添えをいただきたい。
本日も活潑な議論をお願ひしたい。

（佐々木会長）

- ・今年度、最後の行革推進委員会である。新しく委員になられたみなさんを迎え、新年度も今まで同様に、色々な角度から市民目線での観点で議論を宜しくお願ひしたい。
平成28年度は、新しい目線、新しい視点から行革を考え、みなさんから意見、提案をいただき、反映できたと思う。
「いいだ未来デザイン2028」の『リニアがもたらす大交流時代に「くらし豊かなまち」をデザインする～合言葉はムトス誰もが主役 飯田未来舞台～』をキャッチフレーズに4月からスタートする。これからもみなさんの活発な意見、提案をいただきたい。

3 協議事項

- ・飯田荘、第二飯田荘の指定管理導入状況について（第三者評価）

（上河内委員）

- ・指定管理者が継続することは、入所者にとってよいことだと思う。しかし、施設入所定員が、建替え後に30人に減ってしまうが、その施設に入所できない人がいるのではないか。
→特別養護老人ホームの入所定員であるが、介護保険事業計画に基づき、飯田市全体、飯田・下伊那地区を含めてこの施設定員をどうするか検討している。

現在の計画期間中に特別養護老人ホームの新設が2箇所（79床）、その他既存の施設で4床が増床となる。

飯田・下伊那地区全体でみると、一時期はかなりの待機者いたが、施設整備が進んだ結果、待機人数は減少している。また、下伊那南部地区においては高齢化のピークが超えた結果、施設入所者は減少している。

このような状況を勘案しながら、飯田荘の施設定員を検討してきた。

飯田荘では、低所得の方が入所できる。建替え施設についても、低所得者向けの設計となっており、市としては、低所得者の方でも入所できる施設を確保しながら、全体の床数を考えていくと30人が適当である判断した。

現在の定員数は60人であるが、建替え後は30人と半減するが、退所があった場合は補填せず少しずつ定員を減らしている。建替えまでには30人の定員になる予定である。

（原長寿支援課長）

（上河内委員）

・働いている人は減るのか。

→施設定員に併せて職員数も減るが、定員数が半減したことにより、職員数も半減されることはない。施設基準に基づいて職員数も調整する。（原長寿支援課長）

（中山委員）

・飯田荘は、低所得者の方が入所できるということだが、現在の経済状況や飯田・下伊那の状況を見ると、低所得者の方の入所ニーズは高いのではないか。

→施設については、市も整備しているが、社会福祉法人も意欲をもって整備している。そういった意欲を生かしながら、整備を進めていきたいが、できるだけ、地域、自宅で暮らしたい方もいる。そういった希望を叶えながら、なお、かつ施設入所する方の希望も考えていきたい。

（中山委員）

・低所得者に対しての、対応の必要性が今後増加してくると思うが、低所得者が民間へ入所する場合の補助等はあるのか。

→低所得者の方については、介護保険で経済的負担を補助している。（所得に応じて利用料が決定される）市として独自の負担軽減する補助金等はない。（原長寿支援課長）

（中山委員）

・建替えにあたって、定員が減少されることは市民に対して広報等しているか。

→利用者及びご家族の方への説明のほか、「いいだ」広報へ掲載するなどし、理解していただく取組も進めている。（原長寿支援課長）

（中山委員）

・定員の減数について、市民からの問い合わせ等があったか。

→現在のところ意見等はお寄せいただけていない。（原長寿支援課長）

（中山委員）

・飯田・下伊那の施設等の状況をみて定員数を検討していることは理解できた。介護にあたるのは、家族であり女性であるので、今後の生活設計にあたり、このような情報を細かく発信していただきたい。

→貴重なご意見ありがとうございます。今後、検討していきたい。（原長寿支援課長）

（小林委員）

・補助金について、25年～26年と差あるが何か変動があったか。

→25年、26年について特に差はなかった。大きく差があったのは、当初、市から職員を派遣していたため、指定管理開始から3年間くらいは職員の人件費を補助金として支出していた。
(原長寿支援課長)

4 報告事項

(1) 平成29年度飯田市予算の概要及び財政見直しについて

(中山委員)

- ・12の基本目標と戦略計画について予算が措置されているが、今までの会議に参加する中で、実際に地域でどのように活用していくか、また、遂行していく人がいなくて困っていることを聞いている。

市役所だけではできないため、市民一人一人がなにができるのか、自分達の生活にどのようにかかわってくるのか、具体的に共有できる場があるとよいと思う。

また、実際に予算等を活用するためにはどうしたらよいか、市でそのような場を企画し設定をしていくことを考えているか。

→基本目標8の「地域経営の仕組みをつくる」という観点が「いいだ未来デザイン2028」の大きなポイントであることを認識している。特に「田舎へ還ろう戦略事業」を全庁的（自治振興センター、公民館）とまちづくり委員会等と協働しながら新しい仕組み、担い手の確保、また、役割分担の仕方を検討し考えていくことを想定している。（櫻井財政課長）

(2) 飯田市行財政改革大綱（平成29年度～平成32年度）に基づく実行計画について

- ・質疑等なし

(3) 庁内主要マネジメントの見直しについて

- ・質疑等なし

4 その他

- ・平成29年度の取組
- ・第5回推進委員会議事録について
- ・報酬及び旅費について

(佐藤本部長)

- ・本日の議題であった飯田荘の定員減の協議について、市としては計画の中で説明したつもりではいたが、意識の高い委員のみなさんにも伝わっていなかったことがわかった。改めて、説明が大切なことが認識できた。今後、行革の取組についても、委員のみなさんに協力いただき、市民へしっかりと説明していきたい。

5 閉会